



R7年度

今年の夏も水あそびを企画しています。

天候・気温・水温・利用者の状態により、水あそびをお休みする事もあります。

プラザの水あそびは未就園児対象です。就学・就園児さんはご遠慮ください。



\*持ち物には必ず名前を書きましょう。

\*お家の方も、濡れてもいい服装で来てね。



衛生上、怪我防止の為、  
はだかでの水あそびは  
ご遠慮ください。



- ・発熱や下痢など、風邪の症状がある。
  - ・皮膚にトラブルがある。(とびひ、湿疹など)
  - ・結膜炎、中耳炎などの病気がある
- ☆元気になったらあそぼうね。

\*水あそびの用意をする時に、お子さんの皮膚の状態など、体全体を診てあげてください。

\*お家の方が必ず見守ってあそんでください。

**水あそびをする日**  
 7月24日(木)、29日(火)、  
 30日(水)、31日(木)  
 8月1日(金)、7日(木)、22日(金)  
 26日(火) の8日間

**水あそびの時間**  
 10:00～ 体操、着替え  
 10:10～11:10 水あそび  
 (一人20分程度目安にお過ごし下さい)  
 11:10 片付け、着替え

**遊び方**

- ・にこにこひろばにレジャーシートを敷いて、着替えを準備しましょう。
- ・ビニール袋にタオルを入れて、ライオン広場(戸外)に行きます。
- ・プールやタライの水であそびます。あそび終わったら水あそびおもちゃを片付け、体と足を拭いて、室内に入り着替えましょう。



# 夏の3大感染症 & 皮膚トラブル



## ① 咽頭結膜熱(プール熱)

38~40℃の発熱、のどの痛み、食欲不振、結膜の充血、目やにが増える。下痢になることもある。

注意点→ 治った後も便にウイルスが 30 日間程度排出されるので、手洗い、排泄物の扱いに注意しましょう。

\*こども園では感染すると、登園停止です。

## ② 手足口病

主に手、足、口の中、お尻に水疱ができる。軽い発熱(2~3日)。

注意点→ 大人が感染すると、子どもより症状が重くなりやすい。一度かかっても、また感染する事もある。

回復後も2~4 週間は、便とともにウイルスが排出されるので、手洗い、排泄物の扱いに注意しましょう。

## ③ ヘルパンギーナ

39℃を超える高い熱、喉の痛み、喉にぶつぶつができる。まれに無菌性髄膜炎を併発することがある。

注意点→ しばらくは鼻水や便にウイルスが排出されるので、手洗い、排泄物の扱いに注意しましょう。

## ④ とびひ(伝染性膿痂疹)

虫刺されやひっかき傷のあとに細菌が付いて、水ぶくれができる。水ぶくれが黄色く変色して破れ、中の菌が別の場所に移って全身に広がっていくのが特徴。水ぶくれは破れたあと、かさぶたになる。

注意点→ うつりやすい病気なので、プールには入れません。体力が落ちているときにかかりやすいです。

## ⑤ 流行性結膜炎

まぶたがはれ、裏まぶたに小さなブツブツができる。充血・目やに・涙目や発熱も見られる。

重症化すると角膜炎を起こすこともある。

注意点→ 伝染性が強く、症状も重くなります。治療をしても1週間くらいは症状が 続き、潜伏期間が1~2週間と長く、感染してもわかりにくい為、最も注意が必要な病気といえるでしょう。

\*②~⑤は、こども園では、医師の診断によって登園できる感染症です(感染のおそれがないと認めるまで休み)。

## ⑥ 水いぼ(伝染性軟属腫)

ウイルスによって腕や足、体に米粒程度の大きさのイボができ、体のあちらこちらに広がっていく。発熱やかゆみ等はない。

\*プール遊びへの参加については、かかりつけの医師にご相談ください。



こんな事にも注意してあそびましょう

### 絶対に目を離さない！！

水あそびは子供が濡れたり、転んで怪我をするなどの危険を伴います。  
わずか5cm の水位でも乳幼児は濡れてしまうことがあります。

### 水あそび後のケアを万全に！！

水あそびが終わったら、すぐにタオルで体についた水気を拭きとり、気化熱で体温が奪われるのを防ぎましょう。

☆ 準備、片付けなど参加者の皆さんの協力をお願いします。

☆ みんなで楽しい水あそびの時間を過ごしましょう。

水分をこまめにとって  
熱中症予防  
をしましょう

